

# 第 10 回 WCRP/RfP 世界大会

## 宣言文

ドイツ・リンダウ

2019 年 8 月 23 日

### 前文

我々 900 人の女性、男性、そして青年宗教者は 125 カ国から、WCRP/RfP の第 10 回世界大会に参加するためドイツ・リンダウに結集した。WCRP/RfP 創設以来 49 年間、我々は平和構築に力を注ぎ、社会的弱者のために声をあげることを決意し、取り組んできたことを我が喜びとする。我々は慈悲と愛による連帯である。我々はレリジョンズ・フォー・ピースが挺身する「共なる行動」の連合体であり、その活動はさらなる拡大と成長を遂げ、輝きを増している。しかし、その一方で、宗教コミュニティがさまざまな大小の事例において、その力を十全に発揮できなかったことに、我々は悲しみを禁じ得ない。宗教の悪用、とりわけ暴力と憎悪をあおることを目的に宗教が曲解され、利用されてきた事実到我々は胸を痛める。我々は連帯して宗教の違いを尊重し、人々が求めてやまない平和のために奉仕する。我々は希望を分かちあい、すべての人間が公共の利益を守る責務を分かちあい、他者を慈しみ、地球を大切にし、そしてつながりあうすべてのいのちを愛することを、聖なる存在から求められていることを共に確信し、ここに結集した。

人類家族が背負っている重荷を我々は深く認識している。戦争がいかに無辜の人々の生命を奪い、心身を傷つけ、その生活を破壊するかを、我々は知り尽くしている、極度の貧困がいかに人々の生活を阻害し、人々に屈辱を与え、搾取するか——人々を押しつぶすその重みを我々は知っている。我々人類家族の 1 割は絶望的な貧困状態に置かれている。7,000 万人以上の人々が、心安らぐ故郷の家を奪われ、難民、国内避難民となっている。さらに、移住を強制されている人々もいる。核兵器の近代化、宇宙および人工知能の軍事利用、新エネルギー兵器の開発などによって、新たな軍拡競争が始まったことも我々の知るところである。地球温暖化の悪化、熱帯雨林の破壊、海洋汚染、そしていのちのつながりの断絶と相まって、人類家族が負う重荷はさらに深刻なものとなりつつある。

また我々は、国際連合や、人権・法制度・国際貿易について定めた国際協定を支える近代的秩序に対する「枠組みを超えた危機」に直面している。あらゆる形態の自由と少数派の保護、我々の連帯の構造が世界中で攻撃的になっている。経済面では、ほんの一握りの富裕層が、経済的に恵まれない 40 億人よりも多くの富を所有している。こう

した政治・経済的側面の危機に加え、今日、我々は「真実」の危機に直面している。「フェイクニュース」が政治的・商業的利益のために利用される一方で、「真実」の概念が攻撃の対象になっているのである。今日、我々は、不都合な真実と、都合のよい作り話との間で右往左往している。もう時間は残されていない。我々は速やかに行動しなくてはならない。

## 慈しみの実践：共通の未来のために——つながりあういのち

我々は、心の内奥にある聖なる体験と、表面に現れる社会生活を一つにつなぎあうことで、*WCRP/RFP* が「つながりあういのち」と呼ぶ積極的平和の状態をつくり出すことを求められている。聖なる存在がさまざまな形で体験されることによって明らかになるのは、我々が皆、根源で聖なる存在や、聖なる存在によって生み出され、抱かされているすべてのいのちにつながっているという事実である。根源でつながりあっているがゆえに、我々の幸福は本質的に共有されている。他者を助けることは、自分自身を助けることであり、他者を傷つけることは、自分自身を傷つけることを意味する。我々は女性や青年の重要な役割を十分に認識し、今後もその不可欠な貢献を活動の中心に据えていく。我々のさまざまな伝統が明らかにしているのは、聖なる存在によって我々人類は互いに責任を負い、依存しあい、さらに我々のいのちを支えている地球に対して責任を負うものとなったということである。つながりあういのちは、人間の尊厳が近代秩序によって守られるために、我々があらゆる努力を惜しまないことを求めている。さらに、我々の宗教に対し、建設的な精神をもって、そうした努力を補完することを求めている。我々は自由が根源的に重要であるとする近代秩序の認識に賛意を表す。しかし同時に、我々は自由の聖なる基盤を実例で示すことを求められている。それは、ニヒリズム（虚無主義）の絶望を乗り越え、自己愛に基づく無分別な消費主義を拒絶し、すべてのいのちに対し徹底した慈愛を示すことである。

人権の保護への取り組みに加え、我々は人徳の涵養を基本的な関心事に据える。「徳」とは、人間に具わった可能性を育むことを願う本来の心であり、人間の最も崇高な精神、すなわち慈悲、思いやり、愛を涵養するものである。我々にとって崇高な精神に至る努力は孤独な行為ではなく、寛容性や相互愛によってのみ達成できる「連帯」の行動である。人徳の涵養は、正当な共同体を分断する無知と個や集団のエゴイズムに対抗するものである。

また、つながりあういのちは、「公共の利益」という確固たる概念を求める。「公共の利益」とは、権利として守られるべき人間の尊厳を正当に実現しようとする我々の努力に資するものである。それぞれ理解の仕方に違いはあるものの、我々にとっての至上なる善とは聖なる存在である。公共の利益には、大気、水、土、そして生命の連鎖を支える地球が含まれ、また人間の尊厳の向上を目指す公正な社会制度も含まれている。そ

れらは、我々が皆、相互の責任と感謝の念を意識することを呼びかけている。人はすべて公共の利益の恩恵を蒙る存在であると同時に、その構築に関わる存在なのである。

いのちをつなぐことは具体的な行動を伴う。いのちをつなぎあうために、我々は武力による紛争を防止し、変容し、公正かつ調和のとれた社会の建設を促進し、持続可能で包括的な人間開発を育み、地球を保護することに力を傾注する。

## 暴力的紛争の防止と変容

我々は、幼児から大人に至るまでの宗教コミュニティ全体で、共通の価値観、宗教リテラシー、そして、平和体験の共有に焦点を合わせた平和教育を進めることにより、暴力的紛争の防止に取り組む。紛争を引き起こす要因に非暴力で対処する紛争管理のスキルを構築する。暴力的紛争を変容させる取り組みは、我々の世界大会においてミャンマー、コンゴ民主共和国、中央アフリカ共和国、ナイジェリア、南スーダンの宗教指導者によって実現された。また、こうした取り組みは、世界大会の全体会議の場で、中東および北アフリカ地域の女性宗教者らによっても表明された。さらに、朝鮮半島の両国の宗教者が朝鮮半島の平和を目指し、環境の醸成に取り組んだ。これらの宗教指導者は相互の力を高めあうために、パートナーとして、平和推進者として、そして癒やしをもたらす者として、世界大会の会期中に個別の会談を行ったのである。我々は、それぞれの国と地域での彼らの努力を支援することを約束する。我々は、暴力的紛争の変容には、過去の悲惨な記憶を癒やし、かつての敵を赦し、そして和解することが必要であると確信し、「赦しと和解の平和憲章」を採択した。我々は、癒やしの取り組みをすべての紛争解決の活動に取り入れていくことを約束する。

新たな核軍縮への取り組みに向け、我々は「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)の全面的なパートナーになることを約束する。我々は、核兵器の存在を非難し、核兵器禁止条約への支持を確認し、かかる目的に向け宗教コミュニティに対する教育を実施し、行動に導き、彼らの関わりを進めていく。また我々は通常兵器から核兵器、化学兵器、生物兵器、そして最新兵器に至るすべての兵器の放棄を含む包括的軍縮に向けた早急な対策を要請する。

## 公正で調和のある社会を促進する

我々は、さまざまな宗教者や諸宗教組織が思いやりと正義への信念を抱きながら、公正で調和のとれた社会の構築に取り組んでいることを心強く思う。我々は、人々が大規模に移住させられることによって生じる危機（そこには難民や移民となった人々とどまらず、彼らが定住した社会の危機も含まれる）など、世界の不正義に対し、継続して

共に立ち向かう。我々は国際的な強制移住の問題に対する行動を優先事項とする。我々は“Welcoming the other” —すなわち他者を歓迎する模範を示すことで社会をリードし、公正で調和に満ちた多様な社会を構築して維持するために必要不可欠な相互の尊重、相互依存、連帯を、人々の心に涵養することを確約する。それらすべてに関連して行われる取り組みとして考えられるのは、市民社会における「徳」の醸成と多様な社会への理解の向上に焦点を当てることを目的にした、幼児期から成人に至るまでの年齢の市民を対象とした宗教リテラシー等に関する教育の実施である。我々は、さまざまな宗教伝統や受け継がれてきた倫理によって幅広く共有されている「徳」に立脚し「徳の連帯」を推進する。

我々は、子どもならびに社会的弱者やそのコミュニティを保護し、深刻な苦しみにあえぐ彼らの人権や福祉を擁護することを誓う。我々は汚職に対し強く反対の声をあげ、良いガバナンス（統治）の推進に向け行動を起こす。また宗教コミュニティ内においても、市民社会のパートナーや政府と協力しながら、あるべき信教の自由を世界中に確立するため共に努力することを確約する。我々信仰者は聖地を保護し、聖地が安寧の地となることを切に希望する。そして聖地のまわりに「平和の輪」を築くために、国連の「文明の同盟」と連携しながら、暴力や冒瀆から聖地を保護し保全する。

### *持続可能で不可欠な人間開発と地球保護*

我々は「持続可能な開発目標」（SDGs）に明記された人材の開発に取り組んでいく。我々は、SDGs の文言に盛り込まれている公正な社会、包括的市民権、機会の均等を促進することにより、持続可能で包括的な人材の開発を推進する。我々は持続可能な消費や労働者の尊厳、そして富の公平な分配における個人の責務を主張する。我々は科学による洞察を重んじ、あまねく人々の幸福に資するデジタル技術の発展を補佐する。我々は教育の機会の普遍化を促進する。そして、引き続き、社会における女性と青年の役割の拡大と、地域、地方、国際レベルの組織における彼らのリーダーシップの促進に努める。

我々は気候変動に対し、早急に行動を起こすことを約束する。地球環境の保護に向け、「緑化のための集会」を促進するなど、宗教コミュニティの結集を図る。共に地球環境の悪化と闘う我々の指導者であり、協力者である先住民族の兄弟姉妹は、「母なる地球が苦しめば、人間も苦しむ。人間が苦しめば、母なる地球も苦しむ」ことを我々に気付かせた。地球を守り、慈しむ立場にある我々は、「森林を守る信仰宣言」を支持する。熱帯雨林の破壊に対する危機意識を高め、霊性や持続可能性が深刻な危機にさらされている現実に対し、教育を通してそれぞれの宗教コミュニティの理解を高めていく。生態系とのバランスのとれた持続可能な生活を送るため、自ら行動を起こし、政府に対して

熱帯雨林を保護し、先住民の権利を擁護し、気候変動に対するパリ協定を遵守する政策をとるよう提唱する。

## 共なる行動への呼びかけ

それぞれの宗教伝統の信条に導かれ、また互いの宗教の違いを尊重し、我々は共につながりあうのちとして、一人ひとりが積極的平和に向けて取り組むことをここに誓う。我々は、誠実に信仰の道を歩む人々と宗教の違いを超えて手を取りあうとともに、すべての善意の女性・男性諸氏と連帯し、次なる行動を提唱する。

- 「経済平和機構」と連携し、多宗教社会を背景とした積極的平和のための教材やワークショップを開発する
- 紛争の予防と変容、女性への暴力の問題に対し、女性が積極的な役割を果たすためのツールやトレーニングの開発を進める
- 宗教伝統の間に起きた事例を含め、過去の痛みの体験を認知し、赦しと和解に向けた公共の活動を促進する
- 難民や移民となった人々の福祉に向けて活動し、介助と支援のプログラムを開発する
- 宗教コミュニティに対し、SDGs 達成に向け、持てる資源を傾注することを求める
- 「諸宗教熱帯雨林イニシアチブ」と協力し、森林破壊に関する公共の意識を高め、「森林のための信仰宣言」を受け入れ、かつ促進することで、気候変動に対処する行動を起こすとともに地球を保護する政策を提唱する
- 「赦しと和解の平和憲章」にあるように、和解は個人の関係のみならずコミュニティや国家間においても積極的平和の極めて重要な側面であるととらえ、これを推進する
- 「核兵器廃絶国際キャンペーン」を全面的に支援するパートナーとなることを確約する
- さまざまな宗教伝統や受け継がれてきた倫理によって幅広く共有されている「徳」に関する言明に立脚し「徳の連帯」を構築する

支持と祝福を得られんことを願い、謹んでここに宣言する。